

9年間の学びに責任をもつ 小中一貫・連携教育

学校がつながる

学びがつながる

子供がかわる



滑らかな接続による
安定した学校生活

授業改善による
学力・体力の向上

連携指導による
豊かな人間性・
社会性の育成

練馬区教育委員会

児童・生徒および教職員の状況

〈心身の発達の変化〉

児童・生徒の心理的・身体的成長が早まり、小学校5年生頃に思春期特有の心身の変化がみられるようになった。

〈学力向上の課題〉

中学校進学時に、学習内容が高度になるだけでなく、学級担任から教科担任へと指導体制などに大きな変化が生じるため、新しい学習環境への円滑な移行が求められている。

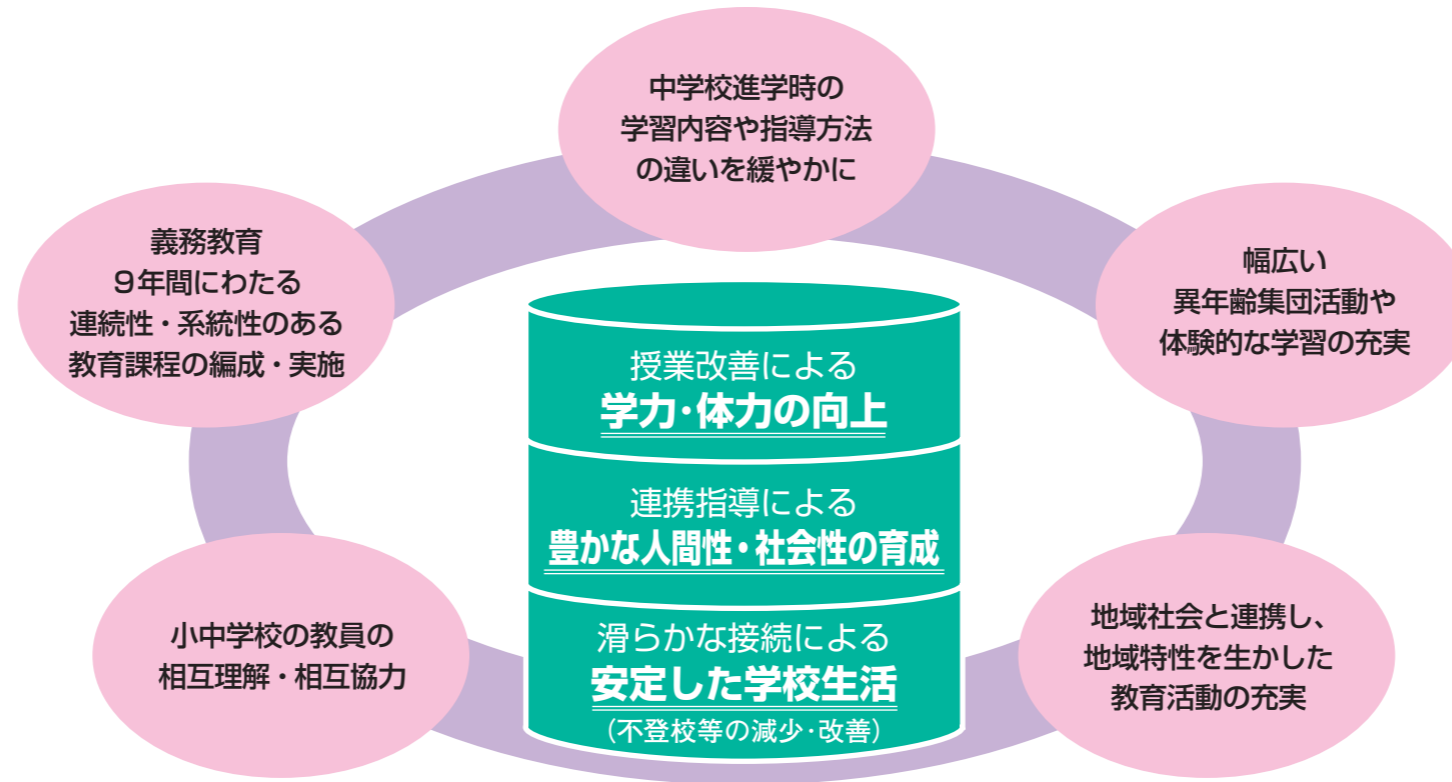
〈生活指導上の課題〉

小学校から中学校への大きな環境の変化が原因の一つとなって、学校生活に不応適を起し、不登校や問題行動など生活指導上の課題を生じる児童・生徒が増える傾向にある。

〈教職員の意識・価値観の違い〉

小中学校の教員の間、指導観や学力観、児童・生徒の成長・発達に対する理解の面で、意識や価値観の違いがみられる。

小中一貫・連携教育の取組と期待される効果



小中学校が9年間を見通して教育活動を進めます

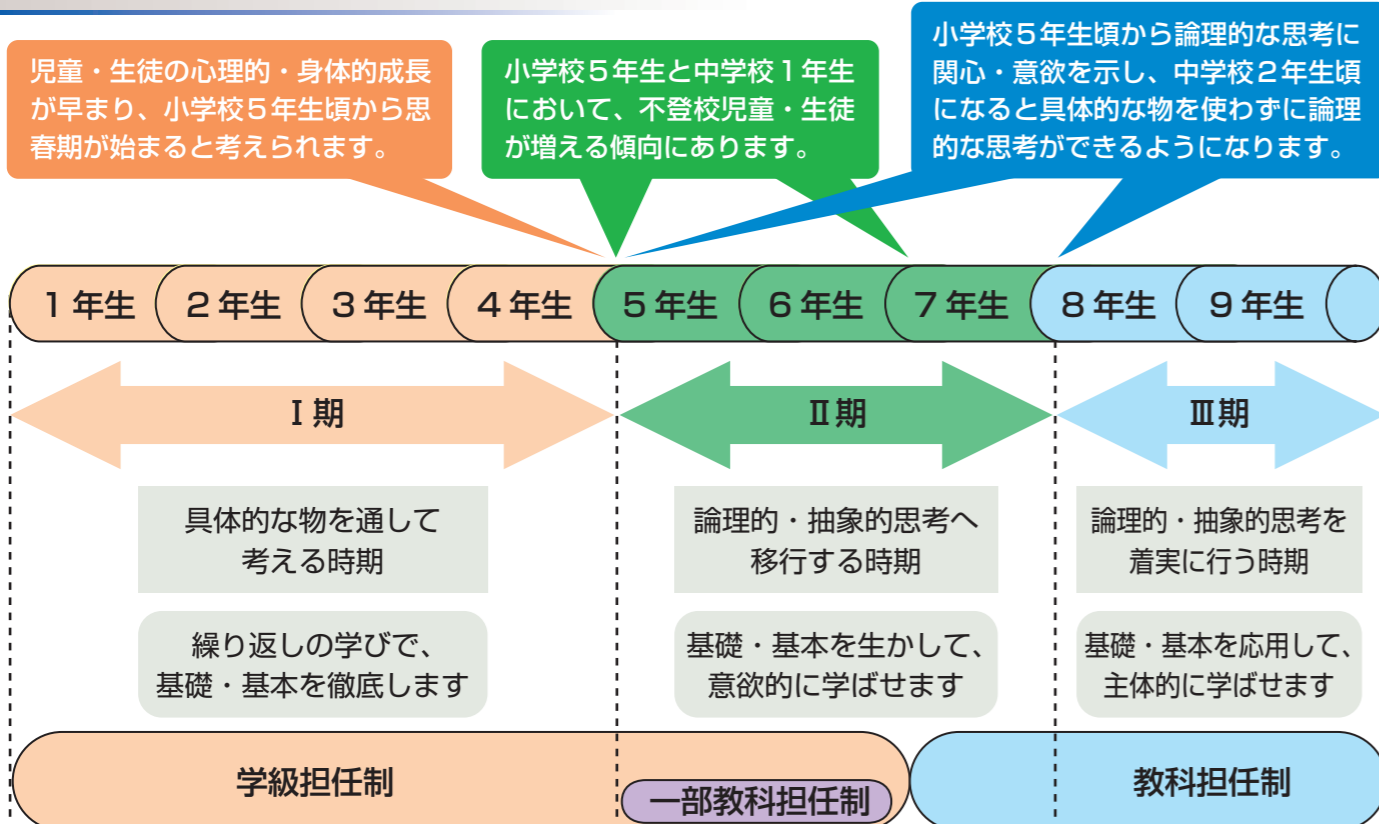
これまでの小中学校の主な取組(平成22年度)

- ・中学校教員による小学校への出前授業〔中学校:8校〕
- ・小中学校教員によるチームティーチング(複数教員が協力して行う指導)〔小中学校組合せ:3組〕
- ・小中学校合同クリーン運動〔小中学校組合せ:4組〕
- ・中学校での小学生の授業体験〔中学校:12校〕
- ・中学校での小学生の部活動体験〔中学校:27校〕

小中一貫・連携教育の具体的な取組事例

- ・独自に作成した小中一貫教育資料の活用
- ・児童・生徒の実態に応じた、教科における課題改善カリキュラムの編成・実施
- ・中学校教員による出前授業および小中学校教員によるチームティーチングの推進
- ・小中学校合同行事(クリーン運動など)の推進
- ・小中学校の教員による合同研究
- ・小学校高学年からの一部教科担任制の導入

義務教育9年間で3つの段階でとらえ、それぞれの時期に応じた「学び」を進めます



独自に作成した小中一貫教育資料を活用していきます

